

コバノリュウキンカ *Caltha palustris* L. var. *pygmaea* Makino

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 17。温帯域の水辺に生育する植物で、愛知県では生育地が極めて少ない上に、園芸目的の採取とシカ食害により激減している。

【形態】

水中や湿地に生える多年生草本。根出葉は心円形～腎円形、長さ幅ともに 3cm 程度、基部は深くへこみ、辺縁には低い鈍鋸歯がある。花茎は直立し、高さ 15cm 程度、上部に少数の茎葉をつける。花期は 5～7 月、がく片は黄色で通常 5 枚である。花茎が倒れて発根し、栄養的に繁殖することはない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 88439, 2013-6-4)。1 カ所に小群落がある。

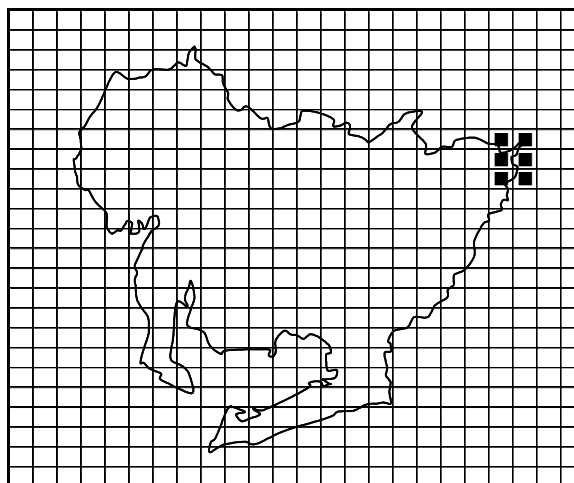
【国内の分布】

本州および九州に分布するリュウキンカの特には茎葉が小さい一型であるが、正確な分布域ははっきりしない。

【世界の分布】

リュウキンカは、日本および朝鮮半島に分布する。種としては北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

浅い水中に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域	○			

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数ももともと多くない。園芸目的の採取により激減しているだけでなく、ニホンジカによる食害が著しい。小林 (2006) は「食害は認められず」と記述しているが、2008 年と 2013 年に調査したときには被害甚大で、完全な状態の株はほとんど見られなくなっていた。

【保全上の留意点】

シカの食害を防止するため、緊急に保護柵を設置するべきである。その一方でこれ以上の採取やカメラマン、自称自然愛好家による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

典型的なリュウキンカは、愛知県では知られていない。日本産リュウキンカ類の分類については、今後詳細な検討が必要である。彩色画は、2009 年版図版 2 に掲載されている。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.43. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

平草 II p.58, 平新版 2 p.140, SOS 旧版 p.49, SOS 新版 p.67,69.